



◆◆◆◆ IPT 通信 2019 Vol.2

2019.5.1(水)

◆◆◆ [各溶媒対応] 膜法によるペプチド・核酸の濃縮精製 [製品の温度劣化を防止!]



<http://www.iwai-pt.co.jp/>



こんにちは、岩井ファルマテックのメールマガジン【Iwai Pharma Tech 通信】です！

今月は令和元年の始まりや大型連休と盛り沢山ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか
Vol.2 では当社の保有する膜分離技術から、「ペプチド、核酸の濃縮・精製」を紹介致します。

—◆◇目次◇—

- ◆1:本技術について
- ◆2:耐性薬品の紹介
- ◆3:特徴

◆1:本技術について

当社の技術を用いる事で、従来では難しいと言われていた「極性の高い溶媒系での濃縮・精製」が可能になりました。

耐有機溶剤・耐酸・耐アルカリ性能を持った膜を使用する事で、膜分離の適応可能範囲を更に広げております！

◆2:耐性薬品の紹介

例として、耐性のある有機溶媒の一部を紹介致します！

(その他の有機溶媒および、酸・アルカリの耐性については、◆3:特徴に記載している URL をクリックしてください)

メタノール エタノール アセトン トルエン etc....

◆3:特徴

本技術および膜の特徴の一部を紹介させていただきます。

- 膜の分画分子量は 200~10000Da で、中分子から高分子の処理まで幅広く対応
 - 低温から常温プロセスでのプロセスを構築可能！製品の温度劣化を可能な限り防止
- 本技術を使用する事で、製薬・バイオプロセスの合理化や製品品質の向上出来ます！

▼膜分離技術：「ペプチド濃縮・精製」

<https://www.iwai-pt.co.jp/film-process/pharmaceuticals.html>

連休後の休みボケに負けずに、頑張ってください！
最後までお読みいただき有難うございました。
